

1 学校として目指す授業

協働的問題解決型学習を通して、基礎的な力、他者と共に考える力、他者と共生できる力、社会の中で実践する力を育成する授業

2 児童の現状

(1) 「全国学力・学習状況調査」の分析（6年生）

学力・学習状況調査の分析	生活習慣や学習習慣に関する質問紙調査の分析
・国語では、自校平均正答率が全国より0.2pt上回った。しかし、観点別にみると知識及び技能の中の「言葉の特徴や使い方に關する事項」については、全国平均正答率を3.3pt下回った。 ・算数では、自校平均正答率が全国と同じであった。問題別集計結果を見ると、「数と計算」と「データの活用」の問題で平均正答率が、全国平均正答率よりも5 pt以上下回った。 ・理科では、自校平均正答率が全国より2.1pt下回った。問題別集計結果を見ると、「生命」を柱とする領域では、全国平均正答率より6.1pt下回った。受験に関しての知識が問われる問題では、全国平均正答率より10pt下回っている。	・「算数の授業で、どのように考えたのかについて説明する活動をよく行っているか」について、否定的な回答が42.1ptで、全国平均を7.8pt上回った。授業の中で考えを説明する時間を確保して実践することが課題である。 ・「理科の授業で、観察や実験の結果から、どのようなことが分かったのか考えているか」について、否定的な回答が14.8ptで、全国平均を3.2pt上回った。授業の中で分かったことを自分の言葉でまとめる時間を確保することが課題である。

(2) 清瀬市「学びに向かう力等に関する意識調査」の分析（4～6年生）

清瀬市の傾向として、学習の進め方に関する「確実にできるようになるまで、くり返し練習している。」という質問に対して、37ptの児童が否定的な回答をしている。
また、漢字学習に関する「漢字の部首も考えながら覚えている」「似た意味や反対の意味の漢字、使われている熟語などを確かめながら覚えている」という質問に対して、どちらも約40ptの児童が否定的な回答をしている。
算数の学習に関する「算数で学習する言葉や公式は、見ないでもいえるようにしている。」という質問に対しては、32ptの児童が否定的な回答をしている。

(3) 清瀬市「学力調査」の分析（5年生）

・国語では、自校平均正答率が全国の平均正答率を上回っている。しかし、観点別では、知識・技能は全国平均正答率を3.4pt上回っているが、思考力・判断力・表現力では、0.5pt下回った。領域別で見ると、書くことに關する問題の自校平均正答率が50ptを下回り、全国平均正答率よりも3.9pt下回っている。文章を書く力に問題がある。相手と目的を明確にして、文章を書く力を高める指導をすることが課題である。
・算数では、自校平均正答率が全国平均正答率を上回っている。また、観点別でも、知識・技能は3.3pt、思考力・判断力・表現力は0.1pt、全国平均正答率を上回っている。

(4) その他の資料を活用した分析

活用した資料名及び分析結果
・東京ベーシックドリルの算数の結果から、平均正答率が60ptを下回る学年が5学年中、2学年あった。全学年に共通して、図形に関する問題の正答率が低い。図形に関する基礎基本の知識の習得に問題がある。

3 児童の学力・学習状況等の課題

- ・国語では、基礎的・基本的な知識及び技能を、反復練習等を通して定着させることと、既習事項を生かす場面を設定することが課題である。
- ・算数では、グラフや表を正確に読み取り、分かったことを伝え合う時間を確保することが課題である。
- ・理科では、授業内で知識及び技能を着実に習得させることが課題である。

4 学校全体の授業改善の視点

(1)基礎的・基本的な知識及び技能を定着させるための時間の確保 (2)思考力・判断力・表現力等を生かす機会の設定
主体的・対話的で深い学びの実現のために、(1)(2)を授業改善の視点として、ICTを活用して学習指導の質と効率を向上させ、協働的な学びのある授業（「分かった・できた喜び」「学ぶ楽しさ」を実感させる）を充実させる。

【授業改善推進プランの活用法】

①「1 学校として目指す授業」を設定する。
※学校経営方針との関連を確認すること。

②「1 学校として目指す授業」に関する各種調査の特徴的な課題を「2 児童の現状」にまとめる。

③「2 児童の現状」を基に、学校全体の課題を焦点化して、「3 児童の学力・学習状況等の課題」にまとめる。

④「3 児童の学力・学習状況等の課題」を基に、「4 学校全体の授業改善の視点」を設定する。

⑤「4 学校全体の授業改善の視点」を基に、「5 各教科における授業改善の方策」を設定する。 → 教育指導課へ提出する。

⑥12月末に実施状況を評価し、3学期以降の指導に生かす。
評価 ◎...実施した。 ○...一部実施した。 △...未実施

5 各教科における授業改善の方策

	国語	評価	社会	評価	算数	評価	理科	評価	生活	評価	音楽	評価	図画工作	評価	家庭	評価	体育	評価	外国語	評価	道徳	評価
低学年	(1)配当されている文字の反復練習の時間を設定する。 (1)音読や書く活動を通して、既習の字を正しく読んだり文の中で正しく使ったりする力を育てる。 (2)伝えたいことをペアやグループで話したり、演じたりする機会を設定する。				(1)適用問題への取組時間を確保する。 (2)半具体物を操作したり、図を用いたりしながらペアで問題解決の方法を説明し合う時間、上手な説明を真似する時間を設定する。 (2)1単位時間で大切だった見方・考え方について振り返る。				(1)授業の初めに前時で分かったことを振り返る時間を設ける。 (2)気付いたことや分かったことをワークシートにまとめ、ペアで発表する機会を設ける。		(1)学習内容に沿った常時活動を行う。 (2)自分の思いをもち、ペアで伝え合い、曲想を感ぜ取る機会を設定する。		(1)お手本（実物、ICT活用）を提示し、見通しをもたせる。 (2)タブレットで作品を撮り、友達作品を鑑賞して感想を伝え合う機会を設定する。			(1)課題にあった運動の行い方を明確にし、繰り返し運動に取り組めるようにする。 (2)教員が提示しためあてに沿って、ペアやグループで運動遊びに取り組む場面を設定する。				(1)ねらいに沿った発問になるようにする。また、自分の考えを書く時間を多くとる。 (2)ペアで考えを伝え合う時間を設定する。		
中学年	(1)漢字の反復練習の時間を確保し、漢字の小テストを定期的に行う。 (2)既習事項を使って文章を作成する時間を設定する。 (2)ペアやグループで自分の考えや作文を発表し、感想やアドバイスを伝え合う時間を設定する。		(1)授業の初めに前時に学習した用語についてペアで説明する時間を確保する。 (2)ICTを活用して資料を提示する。また、資料から考えられることを話し合う時間を設定する。		(1)既習問題を反復する時間を設定し、基礎の定着を図る。 (1)既習の単位や公式を書く時間を設定し、知識の定着させる。 (2)ペアやグループで算数用語を使って説明する時間を確保し、言葉の理解を定着させる。		(1)「疑問」「問題」「予想」「計画」「実験」「考察」「結論」「疑問」といった理科の学習プロセスの定着を図る。 (2)思考の場面では、個人で考える時間とペアで考える時間を分けてとる。				(1)学習内容に沿った常時活動を行う。 (1)ICTを活用し、学習に必要な情報を提示し、演奏に必要な技能を確認しながら身に付けられるようにする。 (2)自分の考えをもち、ペアやグループで伝え合い、表現の工夫や鑑賞をする機会を設定する。		(1)活動を振り返り、工夫したことやつくり終えて思ったことなどを文章に表す。 (2)製作した作品を鑑賞し感想を伝え合う活動を設定する。			(1)課題に合った場を設定し、繰り返し練習ができるようにする。 (2)ICTを活用してペアやグループで撮影をし、自己の運動を客観的に確かめる時間を確保し、自己の課題を明確に把握できるようにする。				(1)ねらいに沿った発問になるようにする。 (2)ペアやグループで考えを伝え合う時間の後に、更に自分の考えを深める時間を設定する。		
高学年	(1)小単元の学習の際に、漢字テストを定期的に行う。また、書く活動を通して、既習の字を正しく文の中で使っているか、文章が適切に書けているか、互いに確認する時間を設定する。 (2)グループやペアで自分の考えを説明する時間を設定する。		(1)授業のはじめに、前時のめあてとまとめを確認する、書く活動を通して、既習の字を正しく文の中で使っているか、文章が適切に書けているか、互いに確認する時間を設定する。 (1)ICTを活用して、図表やグラフ、写真等の資料を提示する。また、単位やめもり等の見方の指導も行う。 (2)授業のまとめや振り返りを書き、共有する時間を設定する。		(1)単元の中で、既習問題に取り組み、反復練習を行う時間を設定する。 (1)既習の単位や公式を書く時間を設定し、知識の定着させる。 (2)ペアやグループで算数用語を使って説明する時間を確保し、言葉の理解を定着させる。		(1)学期末にこれまでの学習がすべて入ったテストを行い、それに備えた反復学習を行う。 (2)思考の場面では、個人で考える時間とペアで考える時間を分けてとる。				(1)学習内容に沿った常時活動を行う。 (1)ICTを活用し、学習に必要な情報を提示し、演奏に必要な技能を確認しながら身に付けられるようにする。 (2)自分の考えをペアやグループで共有し、曲にふさわしい表現の工夫や曲の良さを鑑賞する機会を設定する。		(1)活動を振り返り、工夫したことやつくり終えて考えたことなどを文章に表す。 (2)製作した作品や著名な芸術作品などを鑑賞して感想を伝え合う活動を設定する。		(1)授業の始めに前時の振り返りを行う。 (2)自分の生活を振り返り、自分事として考える時間を設定し、ペアやグループで共有する場を設ける。また、ICTを活用し、資料や手本を提示する。		(1)めあての設定・実践・振り返り・課題の明確化を繰り返し行い、学びのサイクルを確立する。 (2)ICTを活用して、課題分析の視点や方法を提示し、自己やチームの動きを課題を把握できるようにする。		(1)授業の終わりに、ゴールに沿った振り返りを行う。また、授業始めに前時の振り返りを行う。 (2)外国語を使って、自分の考えや気持ちを相手や目的に合わせて表現する場を設定する。また、ICTを活用して、伝えたいことを可視化する。		(1)ねらいに沿った発問をする。自分の考えを書く時間を多く取る。 (2)他者の考えのよさに気付いて尊重したり、自分の考えが深めたりできるように、グループ活動やICT機器を活用して考えを交流させる。	